まち

No.10 2018年 春号

発　行　日：平成30年3月20日
発　　行：日本大学理工学部まちづくり工学科教室
　　☎03-3259-0531（学科事務室）
発行責任者：八藤後 猛（教室主任）
編 集 担 当：横内憲久
制　　作：株式会社 ムーンドッグ

contents

巻頭言 …… 1
特集　新聞を「しっかり」読むこととは。――新聞から“知”を得るために 3
平成29年度　卒業生の就職活動状況 …… 7
平成29年度　まちづくり工学科研究業績 …… 8
平成29年度後期　“まち”行事・イベントカレンダー …… 10
教職員・学生の活躍 …… 12

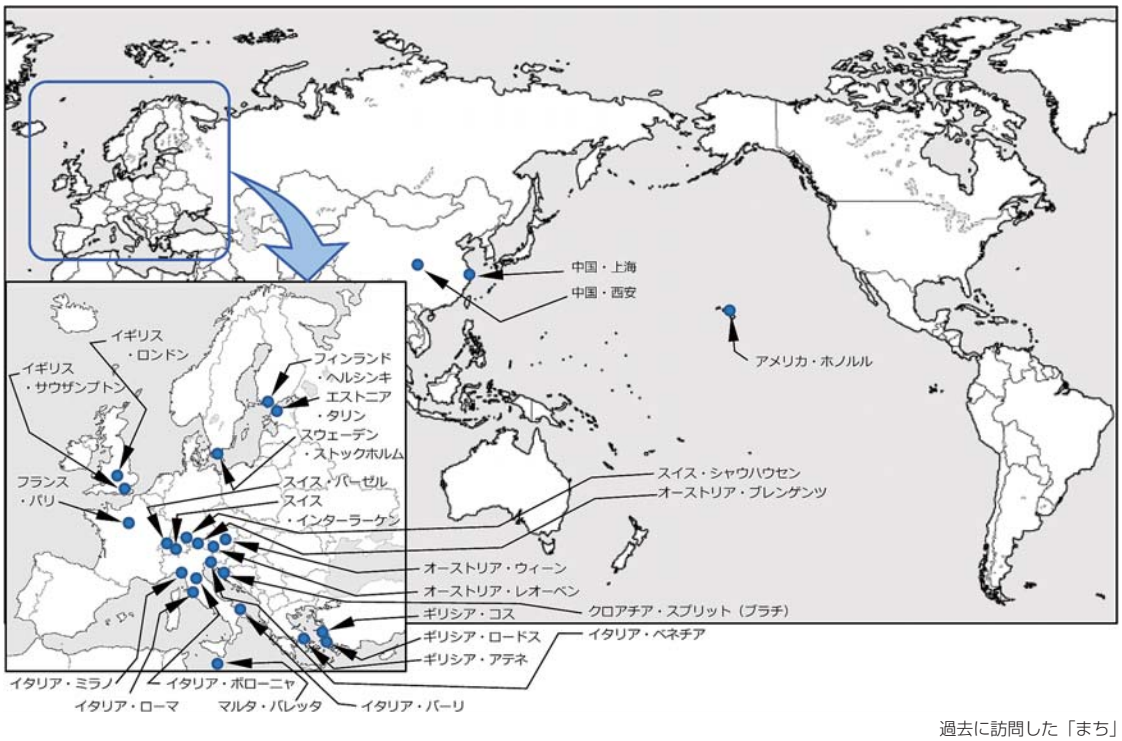
巻頭言

私の世界のまちある記

教授　後藤　浩

大学に勤めてから今年で23年目となった。おかげで大学にふらっとやってくる卒業生も多くなってきた。学生時代、「どうしたら楽に単位を取って卒業できるか」しか考えていなかったような卒業生が、結構立派なことを言ってきて、同時に差し出す名刺の肩書も驚くばかりになっている。話の結末に「学生時代にもっとダラダラしておけばよかった」と振り返る人は皆無であり、「学生のころから、心がけておけば、○○くんは、もっとすごくなっていたんじゃん」と質問をすれば「そうですよね～。本当に後悔しています。今は、なぜか向学心旺盛です」との趣旨の回答が確実に返ってくる。ここでは、そのような経験を踏まえ「学生の皆さんには、知見を広め視野を広げてもらいたい」との趣旨の話をするために、筆をとることにする。

私は、学生を連れての調査、学会および学校業務等で、さまざまな「まち」を訪れた。本稿を依頼されてから頭を整理した結果、「通過した」を含めれば日本においては沖縄県を除いてすべての都道府県を訪れていた。自分でも驚くところである。海外に範囲を広げれば、海岸工学を教えてもらった上司にくっついて海外を訪れたことをきっかけにして、地域に偏りはあるが、多くの「まち」を訪れていることに気づかされる。下図は、私が海外で少なくとも１泊はしたことのある「まち」の一覧である。それぞれに特徴があり、長く宿泊



過去に訪問した「まち」

しても１週間程度なので、おおむねいい印象しかない。よって、紙面に際限がなければ、すべての「まち」について、その印象を余すところなく書くことが可能であるが、限りがあるので、いくつか取り上げてコメントする。

中国「西安」

本学の海外学術交流の提携校の一つに西安理工大学がある。私の海岸工学の上司が交流に積極的で、ご一緒させてもらった。西安咸陽国際空港に降りる直前の飛行機内の窓から外を見ると、黄砂まみれの「まち」が見えた。西安のまちは東京と肩を並べる大都市で、街路に出れば華やかなショップが立ち並んでいる。行きかう人たちも日本人と似ている中国人ばかりなので、ふと「日本にいるのか？」と思い違いするくらいであった。しかしながら一本裏路地に入ると、もともとあった古い町並みが佇んでいた。急速に発展した「まち」というものは取り残される部分もある……とよくわかった。また、夜に大学を訪問したが、猛勉強する学生が行きかい、そのため大学周辺に屋台が出ていて、大変にぎやかで活気があった。右肩上がりの世相を雰囲気で感じ、西安独特の遺構の存在や多人種（漢民族他）のため住む地域が分かれている状況など、国固有の地域性の理解を深めることができた。

エストニア「タリン」

エストニアは、旧ソ連の一部であったが、その後、連邦解体でバルト三国の一つとして存在している。旧東側の国なので、もともと寂しい印象はあるが、タリン（首都）は、近隣のフィンランドのヘルシンキから１時間程度の航路で観光に行き来できる土地柄なので、旧市街においては観光客も多く華やかである。ヨーロッパの「まち」は基本、教会が中心である。タリンの「まち」も、教会がある旧市街が中心であった。犯罪が多いらしく、明らかに怪しい注射器も落ちていたり、路上生活者がいたり、些少怖い印象であった。また、首都であるにもかかわらずタリン中央駅は大変貧相な駅舎であった。旧来の暗い歴史に引きずられた雰囲気は、なかなか消せないということを実感する次第であった。

フィンランド「ヘルシンキ」

フィンランドの首都ヘルシンキは、大きい「まち」である。中心街は大変にぎわい活気のある空間であった。北欧は福祉・健康を意識した地域であるので「自転車」や「ランナー」のための街路整備がなされ、公園には健康遊具がそこらかしこに設置されていた。また、ヘルシンキ中央駅付近は緑に覆われ、周囲に広大な広場も整備されていた。港に行けばマーケットが開かれ、人でにぎわっていた。人が心豊かに暮らせるための投資が、よく見える「まち」であった。

オーストリア「レオーベン」

私には、以前、ウィーン工科大学に在籍していた友人がいる。その友人は現在、この「まち」にあるレオーベン工科大学に在籍している。ここは、アルプス山脈を見渡せる自然豊かな田舎まちである。一方、大学生が多く活気のある「まち」である。「まち」のつくりが、大変コンパクトであり、食・住・学が接近し、小規模ではあるものの、「まち」の各所に古い歴史を有する教会があったり、歴史ある橋梁・ダムなども築造されたりしている。また、集合住宅であっても、外に木や花を見せるような状況で整備されていた。歩いていて楽しく、単なる観光目的で訪問しても飽きない不思議な空間であった。景観や観光については門外漢ではあるものの、暮らしたい「まち」はこういった空間であると強く感じた。

マルタ「バレッタ」

マルタは、地中海に浮かぶ小さな島国である。バレッタは首都であり、古くは要塞都市であった。現在もその雰囲気を大いに残す地域であった。バスに乗って、バレッタを出るとすぐに荒涼とした荒野となり、降り注ぐ暑い日差しを遮るものはない状況になる。幸いながら、地中海性気候特有のカラッとした空気故、不快感は生じない。その地域では、日本人を見かけることがほとんどないようで、珍しいらしくホテルの人もやたらと話しかけてきた。日本の人口が１億人を超えると伝えるとびっくりしていた（マルタの人口はちなみにおおよそ40万人である）。普段、大都会の便利な暮らしにどっぷりつかって暮らしている私とはまったく異なる生活感と価値観について、具体の意識の情報交換はとても参考になった。

スイス「バーゼル」

もう一度行きたいと思う「まち」である。ライン川が都市中心部を貫くスイス西側の大都市である。わが国の河川と大きく異なる点として、大都市であっても「低いところを流れている川」であるところである。すなわち、日本のような堤防はおおむねなく、防災上は洪水が起きても鬼怒川の「堤防決壊」のような事故は絶対に起きないことを意味する。また、普段は高いところから流れている水辺を見ることができるため、川に沿って遊歩道が整備されていたが、無理して作った日本の堤防上の遊歩道を歩くより、ずっと気分がいい。「まち」も大きいが、きれいな街区に張り巡らされた公共交通（トラム）により効率よく動くことができる。個人的には、教科書的な「まち」であると感じた。

まだ書けるが、紙面の都合上、終わりにする。単なる感想となっているところもあるが、私は各所を訪問したことによって、大変視野が広がったと感じる。学生の皆さんも、「まち」を深く知りたいのであれば、さまざまな「まち」にじかに触れることをお勧めする。皆さんが「海」と思っている目の前の水辺が、実は、単なる「池」だった……などとならないようにしてほしい。

新聞を「しっかり」読むこととは。

新聞から〝知〟を得るために

学生諸君は、すでに、分からないことがあればWikipediaで探り、Yahoo!ニュースで時事ネタを仕入れ、個人情報やコミュニケーションは多様なSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）で情報を取り入れている。これらのツールは日進月歩であるが、一方で、1世紀以上も基本的に変わらない情報受発信手段として「新聞」がある。ここから情報を得ている学生は現在極めて少ないと言われており、諸君の中には、新聞を読むことは必要だと思っていても、授業やゼミで先生方からうるさく言われ、いい加減うんざりしている人も多いであろう。

新聞なんか読まなくても、とくに生活に不便は感じないし、家族とも友達とも付き合っていける。ただ、就活の時期になると、カウンセラーからもセミナーでも「新聞はチェックしておけ」と言われ、即席で新聞を読み、時事ネタ本を買いに行くことになる。

新聞を読むことはそれなりのトレーニングが必要である。水泳の本を読んですぐ泳げないのと同様、これまで新聞を読んでこなかった学生が、いきなり日本経済新聞を読むのはとても難しい。

新聞は、一般に見開き545×820㍉の大きな画面で、四分の三は文字で埋まり、経済・国際・企業・科学技術・法務・医療・健康・教育・地域・スポーツ・娯楽・文化・芸術・社会など盛りだくさんの分野で約30～40ページ、毎日発行される。これを端から端まで丹念に読んでいたら、軽く一日を費やすであろう。そのために、要領よく読むためのトレーニングが必要なのである。

今回の特集では、古くから言われ続け、ノウハウ本もたくさん出ている「新聞を読むこと」の重要性を、テキストを使ってひも解いてみた。

ここで用いるテキストは、『僕らが毎日やっている最強の読み方―新聞・雑誌・ネット・書籍から「知識と教養」を身につける70の極意』（2016年12月12日／東洋経済新報社／1400円＋税）の「新聞編」とする。著者の池上彰は、毎日テレビに出てキャスターや時事解説などを務めるジャーナリストとして有名である。同じく著者の佐藤優は元外務省主任分析官で、とくにロシア関係は第一人者であり、池上彰は彼に〝知の巨人〟の称号を与え評価するほど、多分野にわたる博識者である。

本特集はあくまで新聞を読むにあたっての「トレーニング・入門」を目標とし、学生諸君が2、3カ月後に新聞を読む習慣が日常となっていることを願うものである。

『僕らが毎日やっている最強の読み方―新聞・雑誌・ネット・書籍から「知識と教養」を身につける70の極意』（池上彰・佐藤優　著／東洋経済新報社）

池上彰の購読紙

定期購読 6紙	朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、朝日小学生新聞、毎日小学生新聞
＋	
電子版 2紙	日本経済新聞、ウォール・ストリート・ジャーナル日本版
＋	
駅売りなどで読む新聞 4紙	東京新聞、産経新聞、中国新聞、信濃毎日新聞

合計：毎日11紙

佐藤優の購読紙

定期購読 4紙	東京新聞、琉球新聞、沖縄タイムス、ニューヨーク・タイムス（アメリカ版）
＋	
電子版 8紙	朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、日本経済新聞、琉球新聞、沖縄タイムス、聖教新聞、ウォール・ストリート・ジャーナル日本版

合計：毎日10紙

何のために新聞を読むのか？

「知」は「武器」であり「防具」であり「楽しみ」である。
「知」を得るためのひとつの道具。

新聞を読むのは何のためか？　それはいろいろな知識（知）を得るためです。それでは、得た知はどんな意味を持っているでしょう。佐藤は、知は「武器」であり「楽しみ」でもあると言っています。つまり、知は『私にとってビジネスや人間関係で欠くことのできない「武器」であり、同時に知的好奇心を満たす純粋な「楽しみ」にもなる』と説いています。池上も、知は「武器」と同時に「防具」になるとしています。

しかし、「知は武器であり防具である」と言われても、学生にとっては新聞から得た知を武器や防具に使った覚えがあまりないため、現実離れしているかもしれません。就職試験の際に、時事問題を解かされたり、面接時に新聞ネタの問答があったりするから、新聞を読んでおいた方がいいと言われても、一夜漬け程度になり、就活が終わると新聞も読まなくなり、時事ネタの仕込みも終わるのです。しかし継続し蓄積された知は、自分を助ける強力なツールです。

新聞を読み続けて蓄積された知の恩恵は、生活面においては直接感じられないもしれません。しかし、大学でも企業でも、知識を持っている人はそうでない人より、いろいろな場面で一目置かれる可能性がかなり高いと思います。これは大きなメリットです。新聞は知識を得るためのひとつの道具です。新聞を読むのが目的ではありません。そこを間違いないようにしましょう。

新聞の読み方

とにかく毎日５分でも読む。
「見出し」「リード」で「本文」を読むかを判断。

池上は、世の中で起きていることを「知る」には新聞がベースで、深く「理解」するためには書籍がベースになっていると述べています。佐藤も、新聞が「世の中を知る」ための基本かつ最良のツールであることは今も昔も変わらないと言っています。メディアの伝達速度からいえば、テレビ・ラジオ・ネットがほぼオンタイムで、その次が新聞で、ほぼ１日か半日のタイムラグがあります。しかし、情報量はテレビ等を上回ると言え、総合的に高い評価を得ています。

新聞のページを順にめくっていけば、政治・経済・国際情勢から社会まで、世の中の動きを短時間で俯瞰できます。また、ネットには載らない、各種の詳細な内容の広告も新聞ならではであり、これも貴重な情報です。

新聞をどう読むかについて、池上は一字一句すべてを通読する必要はないとし、新聞はあくまで「飛ばし読み」が基本と言っています。佐藤は、見出しを見て、読むかどうかを迷った記事は読まないのを原則としています。１日のうちで新聞を読む時間をまず決めることが重要とし、他の仕事などのバランスをとらないと、新聞（あるいは仕事）に回す時間が無くなるとしています。

佐藤は、新聞の読み方として、俯瞰的に新聞を見て「１．見出しだけで済ませる記事」「２．リード（見出しと本文のあいだの文。大きな記事についている）まで読む記事」「３．最後の本

理工学部図書館（駿河台キャンパスお茶の水校舎４階）で閲覧できる新聞

朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞、東京新聞、日刊工業新聞、The Japan News（英語）、東亜日報（韓国語）、人民日報（中国語）、図書館新聞

※日本語の新聞は、当月から３カ月前のものまでストックしてある。

新聞の選び方と特徴

朝日新聞、読売新聞、産経新聞、毎日新聞、日本経済新聞、東京新聞の６紙なら、どれでも基本的に構わない。２種だとするなら、１紙は保守系、もう１紙はリベラル系がいい。

朝日新聞　論調がはっきりしているので好き嫌いがあるが、国会議員や官僚、パワーエリートが好んで読んでいることは確か。それ故、目を通す必要はありそう。

読売新聞　今は安倍政権の機関誌のよう。主筆の渡辺恒雄のカラーが強く「ナベツネ個人商店」のイメージ。特色は国際情勢が極めて充実している。それに生活面が面白いと好評。

毎日新聞　個々の記者のパワーがある。オピニオン記事の記者の目は時に社論と異なることもあり、社内の自由な雰囲気が伝わってくる。

日本経済新聞　その名の通り経済情報は断トツです。新聞購読というと日経新聞といわれますが、日ごろ一般紙を読んでない人がいきなり日経を読もうとしても、これはハードルが高すぎます。まずは一般紙から始めましょう。

文まで読む記事」の３段階に分けて読むことを勧めています。

新聞を読む時間について、池上は毎朝11紙の見出しを中心に読み、内容をざっと20分程度で把握し、夜は朝に興味を持った記事を中心に、全体に目を通すようにしているそうです。ということで、池上は１日11紙合わせても１時間20分程度費やすようにしています。佐藤は10紙を２時間以内に収めるよう、ストップウオッチで計測しながら読んでいます。彼らは情報のプロであるため、読み方のトレーニングの成果から、現在ではこの程度の時間で済んでいるようですが、初心者はまず１紙でもいいので１日５分は毎日読み続けてほしいです。それが苦にならなくなったら、１日１、２紙を２時間くらいかけるのがいいのではないでしょうか。

どの新聞のどこを読むか？

立場の異なる２紙を。
新聞の顔は「社説」と「コラム」。

どの新聞を読むかの選択は重要です。昔は多くの新聞が「不偏不党」という、公平・中立の立場をとっていましたが、最近では、新聞社によって記事の取り扱いが変わってきました。

池上・佐藤がみる現在の新聞の志向傾向は、保守路線として産経新聞・読売新聞・日本経済新聞、対する現政権に反対の立場をとるのが朝日新聞・毎日新聞・東京新聞です（詳しくはP.4下部「新聞の選び方と特徴」参照）。例えば、原発事故後にあった首相官邸前での反原発デモは、東京新聞では大々的に取り上げ、朝日新聞、毎日新聞もそこそこ大きく扱いましたが、読売新聞や産経新聞はほぼ取り上げませんでした。したがって、読売と産経新聞だけを読んでいる人には反原発デモそのものが無いことになります。そのため、諸君が新聞を読むならば、志向の異なる２紙は読み比べないとならないかもしれません。しかし、まずは無理をせず、１紙からでもスタートしましょう。あとは図書館や駅売りで補いましょう。

新聞社の本音を知るにはどうすればいいのでしょう。佐藤は、各紙の「社説」と「コラム」を読むのが一番手っ取り早いとしています。「コラム」とは、朝日新聞の「天声人語」、読売新聞の「編集手帳」、毎日新聞の「余録」、産経新聞の「産経抄」などといったものです。執筆者は社内の論説員や編集員などです。一方の「社説」は世の中の出来事や問題に対して新聞社としての公式見解を述べるもので、池上は「新聞の顔」と表現しています。最近の記事には、文責も含めて記者名が載せられるようになりましたが、コラムと社説には署名がありません。それは執筆者個人の見解ではなく、会社としての見解を示すものだからです。佐藤は、いわゆるエリート層で社説やコラムを読まない人間はいないと断言するほど、新聞社のスタンスを明確にしている記事ということですので、必ず読むことにしましょう。

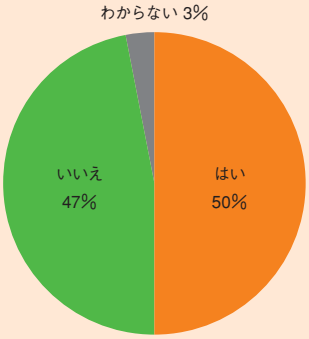
最後に、新聞を定期購読する際の注意です。意気込みすぎて途中で挫折してしまうパターンは、意欲の高い人ほど陥りやすい罠です。新聞をたくさんとりすぎ、結局は積んでおいて無駄にしてしまう例はとても多いのです。新聞を読むのは、諸君の知識を増やし、人間の幅を大きくするためです。新聞を読むのは、就活のためではないと何度も言いましたが、面接官自身がバリバリのビジネスパーソンのはずですから、当然彼らは日常的に新聞を読んで情報を増やしています。読んでいれば、面接者（学生）にいろいろ聞きたくなるのも当然です。その結果として、就活で新聞ネタを尋ねられるという図式になるのです。

まずは、社説とコラムを読むことからスタートしましょう。今から読み始めるとして、１週間に３テーマ分の知識が得られると、１年後には150テーマが身につきます。これはとても大きいですよ。今日すぐに、ウオーキング程度（１日５分）から始めましょう。　　（文責　横内憲久）

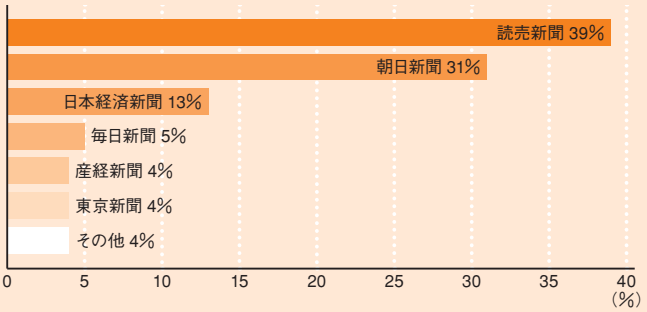
まち科２年生の新聞購読実態調査結果

約半数（50%）の家で新聞をとっています。2016年の定期購読率全国平均が73.0% だったので、やや少ないです。
非購読理由の「社会状況はネットで知る」（30%）は、時代を感じさせます。「購読費が高い」「必要性を感じない」「内容が難しい」の合計が37% で、１位の「ネットで知る」の30% を上回っているのは考えさせられます。知識が増えませんよ。

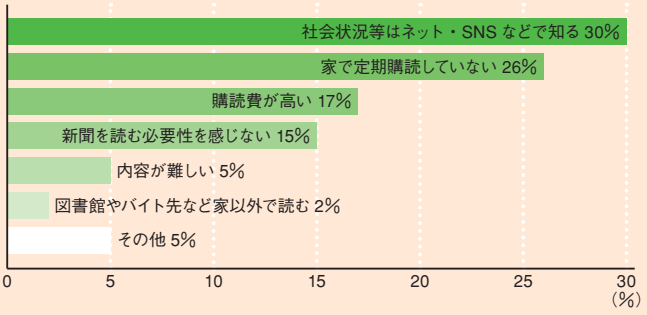
Q１　自宅で新聞を定期購読していますか？



Q２　（「はい」の人）購読している新聞は？



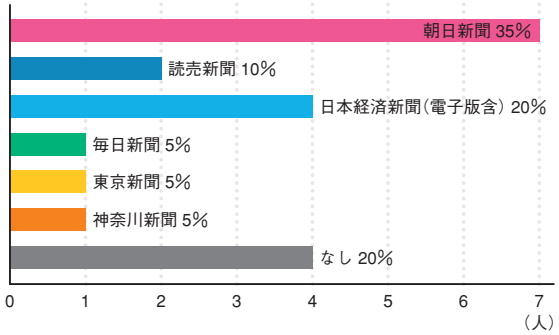
Q３　（「いいえ」の人）購読しない理由は？



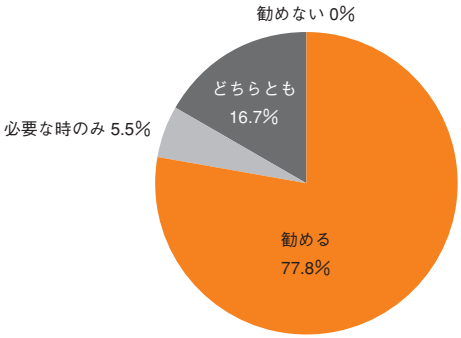
まち科教員の新聞購読実態調査結果

まち科教員への新聞購読に関するアンケート結果によると、「定期購読」している率（Ｑ１）は80％。学生に定期購読を「勧める」（Ｑ２）は77.8％で、かなりの先生方が定期購読を勧めています。なお、購読「なし」はネットのサービスから閲覧。先生方は、かなり強力に新聞を読むことを勧めています。ご自身の体験から新聞の力を評価されたと思いますが、それは新聞が１世紀以上、情報の中枢にいたからこそだと思います。

Ｑ１　定期購読新聞（複数回答）　ｎ＝18



Ｑ２　定期購読を勧めるか？　ｎ＝18



「新聞を読むことについて」まち科教員から学生へ

依田 光正
新聞を読むことが重要な情報収集のひとつであることは認識しておくべき

仲村 成貴
多々ある情報入手手段の中でも、活字記録が残る新聞は活用できる

後藤　浩
多くの学生は、社会に興味を持たず、視野が狭すぎる／そういったことを改善するためには、「社会を知る。知識を得る」意思が必要／そのための第一歩が新聞情報である

押田 佳子
まちづくりに関するニュースは毎日ある／就職試験でもニュースを訪ねられることがあるので情報の引き出しは多く持つこと

西山 孝樹
中１時代に新聞記事を用いたテストが毎朝あり、その訓練が今に生きていると思う

小木曽　裕
新聞から社会のことが分かる／大事な記事のスクラップは最高の財産になる／新聞にはウエブ版があるが全体を見回せる紙が好き／学生にはウエブ版が使いやすいかも

高村 義晴
発信される情報は膨大になっている／情報の見方も多様で、これからは自分なりの見方を持つために新聞で学ぶことが必要

田島 洋輔
ウエブ情報は読みやすさを優先させるゆえに、簡略化になり情報の的確さに乏しい／就活の時期などには新聞の重要性に着目して

青木 和夫
社会の状況を広く知っておくことが学習にも役立つし、自分の興味がどこにあるかが分かる／新聞社によって記事の書き方が違うので、各紙を比較してみることも必要

田中　賢
社会の状況をつかむには新聞です／企業では必ず新聞からの情報収集が必要／今からでも読むクセをつけておくこと

城内　博
新聞代は学生には高すぎる／読むことは必要だが新聞でなくてもいい／約30年朝日、10年日経をとっていたが、新聞の先導に飽きた

阿部 貴弘
新聞を読まない理由を考えるのが難しいほど、新聞を読むのは当たり前／社会を知ることはまちづくりエンジニアとして視野を広げる

天野 光一
新聞は定期購読すべきだし、ざっとでもいいから全紙面を眺め、その上で気に入ったニュースを読むクセをつけたい／ネットではごく一部の情報しか得られない

落合 正行
情報を得るのみならネットニュースでもいいが、時間がある学生は新聞をしっかり読んでほしい／活字に慣れる上でも新聞を勧める

山崎　晋
自分好みの情報のみならネットで可能だが、社会全体の情報を俯瞰するなら新聞／考え方等に偏りが出ないためには複数紙を見て、多角的な視点を持つことが重要

牟田 聡子
ネットは自分の興味のある情報を得ることができるが、興味以外の幅広い視野を得るためには新聞が重要

八藤後　猛
新聞は何らかの思想が背景にあるので、単一紙の定期購読は勧め難い／「学生は新聞を読むべきだ」という一般論には賛成であるが、一概に特定紙の購読は勧めない

岡田 智秀
常識として知っておくべき日々の情報がタイムリーに入手できる／何度もゼミや授業で購読を勧めてきたが、実行に移した学生が皆無に等しいのが悩ましい

平成29年度　卒業生の就職活動状況

まちづくり工学科就職指導　仲村 成貴

本学科では、大学本部や理工学部で主催する行事に加えて、授業（まちづくりと職能Ⅰ、まちづくりと職能Ⅱ【宅地建物取引士試験対策】、インターンシップ、まちづくり特殊講義Ⅰ【技術士第一次試験対策】）、講演会、就職活動ガイダンス、業界・企業紹介（企業セミナー）、公務員試験直前講座といった学科独自のプログラムや、志望先に応じた個別指導・相談を通じて、学生のキャリア支援および就職活動をサポートしてきました。

表１に示すように、本年度の決定率（2018年１月31日現在）は94.3%であり、本学科４年生の就職は堅調に推移してきました。図１に就職先の業種別割合（進学含む）、表２に就職・進学先一覧を示します。

表１　就職・進学状況（平成30年１月31日現在）

	男子	女子	合計
在籍者数	103人	31人	134人
卒業見込者数	94人	30人	124人
就職・進学希望者数	92人	30人	122人
就職者数	82人	27人	109人
進学者数	3人	3人	6人
決定率※	92.4%	100.0%	94.3%

※決定率＝（就職者数＋進学者数）／就職・進学希望者数

公務員として官公庁への就職者が31名（27%）と最も多く、不動産18名（16%）、ゼネコン13名（11%）、建設コンサルタント・建築設計事務所12名（10%）、住宅９名（８%）、運輸、インフラ整備・管理、造園、福祉といった幅広い業種へ就職が決定しました。特に、公務員、建設コンサルタント、住宅へは昨年度比で約２倍、ゼネコンへは約３倍の就職者数となりました。また本年度初めて、福祉業、インフラ整備・管理、製造業へ就職者がありました。関連業種の多彩な「まちづくり」業務に相応して、本学科学生の就職先が多岐に亘る傾向がより明確になったといえます。

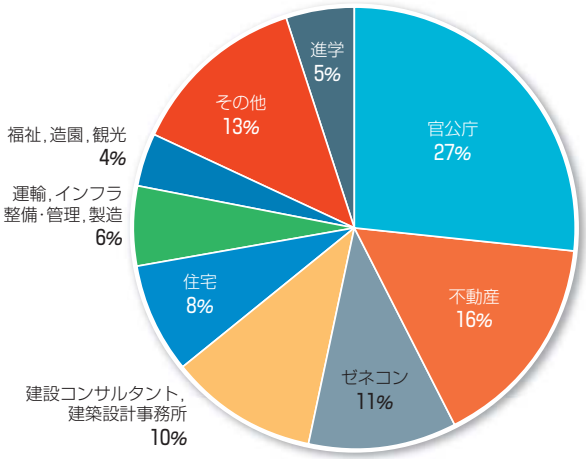


図１　業種別割合

表２　就職・進学先一覧

業種	企業・団体名（[] 内は人数）	人数
官公庁	国土交通省関東地方整備局[1]，東京都庁[2]，茨城県庁[2]，神奈川県庁[2]，埼玉県庁[1]，静岡県庁[1]，千葉県庁[1]，新潟県庁[1]，さいたま市役所[2]，千葉市役所[1]，横浜市役所[2]，市川市役所[1]，宇都宮市役所[1]，小山市役所[1]，鎌倉市役所[1]，川口市役所[1]，西東京市役所[1]，平塚市役所[1]，板橋区役所[2]，江戸川区役所[1]，葛飾区役所[1]，世田谷区役所[1]，千代田区役所[1]，練馬区役所[1]，板倉町役場[1]	31人
不動産	㈱大京[2]，㈱西武プロパティーズ[1]，㈱インヴァランス[1]，㈱MDI[2]，㈱小田急ビルサービス[1]，㈱グッドコムアセット[1]，㈱ジェイアール東日本ビルディング[1]，ジェイアール東日本ビルテック㈱[2]，住友林業ホームサービス㈱[1]，㈱大京アステージ[1]，大成有楽不動産㈱[1]，㈱東京アセットソリューション[1]，東京都住宅共有公社[1]，東京ビルディング㈱[1]，野村不動産パートナーズ㈱[1]	18人
建設（ゼネコン）	鹿島建設㈱[1]，㈱浅沼組[1]，㈱奥村組[2]，㈱熊谷組[2]，五洋建設㈱[1]，佐藤工業㈱[1]，西武建設㈱[1]，東鉄工業㈱[1]，西松建設㈱[1]，日本建設㈱[1]，㈱森本組[1]	13人
建設コンサルタント 建築設計事務所	㈱オリエンタルコンサルタンツ[1]，㈱オオバ[1]，㈱大日本コンサルタント[3]，㈱千代田コンサルタント[3]，㈱八州[1]，㈱URリンケージ[1]，㈱横浜コンサルティングセンター[1]，㈱ジー・ワイ設計[1]	12人
住宅	大和ハウス工業㈱[4]，旭化成ホームズ㈱[1]，㈱一条工務店[1]，㈱エスコン[1]，㈱オープンハウス・ディベロップメント[1]，トヨタホーム東京㈱[1]	9人
運輸，インフラ整備・管理，製造	京浜急行電鉄㈱[1]，東電タウンプランニング㈱[2]，東京都下水道サービス㈱[1]，西日本高速道路エンジニアリング九州㈱[1]，JR東日本テクノロジー㈱[1]，東京ファブリック工業㈱[1]	7人
福祉，造園，観光	㈱プロトメディカルケア[1]，ライクキッズネクスト㈱[1]，西武造園㈱[1]，㈱エイチ・アイ・エス[1]	4人
その他	アルファアーキテクト㈱[1]，㈱DAサーチ＆リンク[1]，イオンエンターテイメント㈱[1]，㈱昭栄美術[1]，㈱さなる[1]，㈱セブンーイレブン・ジャパン[1]，テクパン㈱[1]，トヨタカローラ高崎㈱[1]，㈱メガネトップ[1]，リグナ㈱[1]，㈱足利銀行[1]，西京信用金庫[1]，㈱大黒屋[1]，Flintstone㈱[1]，自営業[1]	15人
進学	日本大学大学院理工学研究科修士課程まちづくり工学専攻[5]　他	6人

平成29年度　まちづくり工学科研究業績

審査付き論文

H.Gotoh, O.Hnada, S.Tomaki, O.Ishikawa and M.Takezawa: Countermeasures for the river mouth closing of Ishikari river, Japan, Proceeding of River Basin Management 2017, WIT Press. pp.33-42, 2017.7

横井元治・青木和夫・堀内邦雄：自動二輪車の低速走行におけるライダーの挙動に関する研究～熟練度による差異の分析～，人間工学　53（4），pp.116-124，2017.8.15

牟田聡子・八藤後猛：妊娠期における身体変化と日常生活動作の困難レベルが住宅内外の事故発生に及ぼす影響　妊娠期から乳幼児期の環境変化に着目した整備に関する研究　その１，日本建築学会計画系論文集82 巻（2017-12）742号，pp.3051-3060，2017.12

落合正行・岡田智秀：川崎市における地域活動拠点施設としての分譲マンションの活用実態と有用性，日本建築学会技術報告集 第24巻 第56号，pp.295-300，2018.2

招待論文（学会からの依頼／審査付）

西山孝樹：古代末期から近世中期の紀の川上・中流域における灌漑水利の変遷，日本水環境学会 水環境学会誌 No.40 vol.7，pp.237-241，2017.7.10

M.Takezawa, H.Gotoh, K.Suzuki, Y.Kakehi and T.Yamamoto: and Assesment of the flood disaster management plans for the medical services in Tokyo and Fukuoka, Japan, Management of Natural Disaster, WIT Press. pp.167-178, 2017

H.Gotoh and M.Takezawa: Tsunami flood risk prediction using a neural network, Management of Natural Disaster, WIT Press. pp.245-258, 2017

口頭発表（審査なし）

植田瑞昌・八藤後猛：障害のある子どものおむつ使用状況と排泄時使用設備・用具類の実態―障害のある子どもを取り巻く排泄環境整備に関する研究　その１―，日本建築学会関東支部研究報告集，2017.2

山中新太郎・八藤後猛・落合正行・三橋侑平・植田瑞昌：小中学校の学びや遊びの傾向と公園利用の相関　川崎市田島地区における公園の利用実態に関する研究（その１），日本建築学会関東支部研究報告集，2017.2

八藤後猛・山中新太郎・落合正行・三橋侑平・植田瑞昌：小中学生の遊びに関する保護者の意識と実態　川崎市田島地区における公園利用の実態に関する研究（その２），日本建築学会関東支部研究報告集，2017.2

三橋侑平・山中新太郎・八藤後猛・落合正行・植田瑞昌：公園の実態と評価からみる公園活用の可能性　川崎市田島地区における公園利用の実態に関する研究（その３），日本建築学会関東支部研究報告集，2017.2

落合正行・山中新太郎・八藤後猛・三橋侑平・植田瑞昌：　公園利用が地域住民による自主管理・運営体制に与える影響　川崎市田島地区における公園利用の実態に関する研究（その４），日本建築学会関東支部研究報告集，2017.2

森紗耶・岡田智秀・田島洋輔・落合正行・横内憲久：都市空間における街区内細街路の景観演出に関する研究，土木学会関東支部第44回技術研究発表会，2017.3.7

水石知佳・岡田智秀・田島洋輔・落合正行・横内憲久：東京港における水上交通を活用した海上景観の魅力形成に関する研究，土木学会関東支部第44回技術研究発表会，2017.3.7-8

西山孝樹・天野光一・髙野秀太：フランスにおける「温泉リゾート地」の分類，土木学会関東支部第44回技術研究発表会，2017.3.7-8

島森晃一・仲村成貴・関文夫：実測記録と数値モデルに基づくバランスド扁平アーチ橋の振動特性把握―河道部のモデル化―，土木学会関東支部第44回技術研究発表会，2017.3.7-8

柴田隆史・斉藤進・青木和夫・岡田衛・窪田悟・栗田泰市郎・外山みどり・久武雄三・宮本雅之・吉武良治：学校における ICT 機器活用に関する人間工学ガイドライン，日本人間工学会第58回大会，2017.6.3

西山孝樹・藤田龍之・天野光一：『徳川実紀』にみる江戸時代前期の道路行政・制度，土木学会第37回土木史研究発表会，2017.6.24-25

阿部貴弘・久松賢生：インフラツーリズムの魅力に関する基礎的研究，土木学会第37回土木史研究発表会，2017.6.24-25

阿部貴弘・木村優介・大沢昌玄・土井祥子：戦後都市施設の歴史・文化的価値の評価基準に関する検討（その２）―街路を事例として―，土木学会第37回土木史研究発表会，2017.6.24-25

本田泰寛・阿部貴弘・北河大次郎：平成28年熊本地震による歴史的土木構造物の被災状況に関する調査報告，土木学会第37回土木史研究発表会，2017.6.24-25

宮澤祐子・阿部貴弘：青梅市内の多摩川に関わる呼び名に関する基礎的研究，土木学会第37回土木史研究発表会，2017.6.24-25

後藤浩・小林昭男・石野和男・竹澤三雄：2016年熊本地震における干拓堤防の被災に関する現地調査（12 - 3），日本沿岸域学会全国大会，2017.7

清水畤子・桑田貴一・八藤後猛・牟田聡子：鉄道駅における手作りサインから見るサイン計画の問題点，日本福祉のまちづくり学会大会論文集，2017.8

蓑輪裕子・植田瑞昌・八藤後猛・牟田聡子・山﨑晋・長谷川万由美：体験型子育てバリアフリー教室に関する研究―ベビーカー利用者によるバス乗車体験等を通じて―，日本福祉のまちづくり学会大会論文集，2017.8

山﨑晋：駅型保育園における園外保育の実態把握―首都圏主要鉄道会社７社の開設施設を対象としたアンケート調査集計結果より―，2017年度日本建築学会大会（中国），2017.8.31-9.3

田中賢・八藤後猛：視覚障害者の美術鑑賞に関する一考察，2017年度日本建築学会大会（中国），2017.8.31-9.3

植田瑞昌・八藤後猛：障害のある子どものおむつ使用状況と住環境整備の実態，2017年度日本建築学会大会（中国），2017.8.31-9.3

落合正行・三橋侑平・山中新太郎・八藤後猛・植田瑞昌：公園の面積と遊具に着目した公園の利用実態―川崎市田島地区における公園利用の実態に関する研究（その５）―，2017年度日本建築学会大会（中国），2017.8.31-9.3

落合正行・山中新太郎・八藤後猛・三橋侑平・植田瑞昌：地域住民による自主管理・運営の実態と公園利用が与える影響―川崎市田島地区における公園利用の実態に関する研究（その６）―，2017年度日本建築学会大会（中国），2017.8.31-9.3

加藤有紗・横内憲久・押田佳子・落合正行・高木宗房：まちづくり手法の実践的試み―千代田区飯田橋駅周辺から九段坂地区を事例として―，2017年度日本建築学会大会（中国），2017.8.31-9.3

隅田和輝・横内憲久・押田佳子・落合正行・岡田智秀・白石翔大：川崎市におけるマンション住民の住民自治組織加入促進に向けた行政支援の実態，2017年度日本建築学会大会（中国），2017.8.31-9.3

Naofumi Nakaya, Satoshi Watanabe, Yukio Mori, Naruki Shirahama, Takayuki Abe, Kazuo Aoki: Automatic Detection of Unintended Indwelling Needle Dislodgement, The 5th IIAE International Conference on Intelligent Systems and Image Processing 2017, 2017.9.10

西山孝樹・石松玲・天野光一：空港の多様性に関する基礎的研究―乗降目的以外の役割に着目して―，土木学会全国大会第72回年次学術講演会，2017.9.11-13

渡辺万紀子・天野光一・西山孝樹：街路の中間領域に関する研究，土木学会全国大会第72回年次学術講演会，2017.9.11-13

後藤浩・小林昭男・石野和男・竹澤三雄：2016年熊本地震における干拓堤防の被災に関する現地調査（12 - 3），土木学会全国大会第72回年次学術講演会，2017.9.11-13

新橋一士・岡田智秀・田島洋輔・落合正行・森紗耶：首都圏近郊都市における地域再生に関する研究―千葉県八千代市八千代台地区の住環境評価からみたまちづくりビジョンの構築，土木学会全国大会第72回年次学術講演会，2017.9.11-13

水石知佳・岡田智秀・田島洋輔・落合正行：東京港における海上からみた景観特性に関する研究―視距離と視野角を用いた魅力分析，土木学会全国大会第72回年次学術講演会，2017.9.11-13

森紗耶・岡田智秀・田島洋輔・落合正行：都市空間における街区内細街路の景観特性に関する研究―奥行プロポーション分析法に基づく街区内細街路の内部景観評価について，土木学会全国大会第72回年次学術講演会，2017.9.11-13

島森晃一・仲村成貴・関文夫：実測記録と数値モ

デルに基づくバランスド扁平アーチ橋の振動特性把握―斜材背面地盤のモデル化―，土木学会全国大会第72回年次学術講演会，2017.9.11-13

田島洋輔：積雪寒冷地におけるバイオガスプラントの余剰熱利用の経済性・環境性評価―北海道鹿追町環境保全センターをケーススタディとして―，土木学会全国大会第72回年次学術講演会，2017.9.11-13

西山孝樹：特別講演会「紀の川の水環境」（招待講演），第20回日本水環境学会シンポジウム，2017.9.26

小木曽裕・山﨑晋：ブルーノ・タウトによるブリッツ連棟住宅等の屋外居住空間の設計意図に対する居住者意識，平成29年度日本造園学会関東支部大会，2017.11.11

林廉太郎・小木曽裕・山﨑晋・小國敬太：久米島における先住者・移住者の居住満足度に対する意識の違いに関する研究，平成29年度日本造園学会関東支部大会，2017.11.11

西澤真依子・押田佳子・佐藤悠貴：近世以降の東京における菖蒲園の盛衰プロセスに関する研究，平成29年度日本造園学会関東支部大会，2017.11.11

近藤彩夏・押田佳子・町田拓也：おもてなし空間としての日本庭園の在り方に関する研究―ホテル椿山荘東京に着目して―，平成29年度日本造園学会関東支部大会，2017.11.11

尾形穂乃花・押田佳子・小山佑也：自然再生空間における自然遊びの需要について―野川公園利用者にとっての自然遊び―，平成29年度日本造園学会関東支部大会，2017.11.11

山﨑晋・小木曽裕：小山Hニュータウンにおける住宅地の継承意識と地域環境評価―地方都市部における郊外住宅地の持続可能性に関する研究 その 2 ―，第61回日本大学理工学術講演会，2017.12.1

小木曽裕・山﨑晋：ブルーノ・タウトによるドイツブリッツ連棟住宅の配置設計による屋外居住空間の意識の基礎的研究，第61回日本大学理工学術講演会，2017.12.1

渡辺大生・天野光一・西山孝樹：熱海市における宿泊客数増加に関する一考察―民間企業およびNPO 法人の活動に注目して―，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

渡辺万紀子・天野光一・西山孝樹：街路空間におけるあいまいな境界に関する基礎的研究，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

植田瑞昌・八藤後猛：障害のある子どもに配慮した排泄環境改善のための 基礎的研究―排泄時利用する設備・用具の実態，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

松下直道・阿部貴弘：近世城下町岩国の町人地設計論理に関する研究，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

岡本祐太郎・阿部貴弘：手賀沼沿岸の土地利用変遷に関する基礎的研究―柏市及び我孫子市の土地利用施策に着目して―，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

斉藤萌・阿部貴弘：神田川沿川の橋詰広場の空間特性と形成過程に関する研究，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

石田彩乃・阿部貴弘：ツアー参加者から見たインフラツーリズムの魅力に関する研究―土木遺産ウォーキングツアーに着目して―，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

高松諒・阿部貴弘，住宅団地内に立地する商店街の変遷に関する基礎的研究―千葉市内の集合住宅団地の商店街を事例として―，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

野中美貴子・阿部貴弘：景観整備がまちづくりに及ぼす効果に関する研究，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

眞鍋慧・阿部貴弘・藤村祐貴：街路高質化事業の評価に関する基礎的研究―シンボルロード整備事業実施街路を事例として―，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

小林達哉・阿部貴弘：老舗飲食店の店舗外観形成に関する研究―旧神田区に立地する老舗を対象として―，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

石黒未夏・阿部貴弘：複合書店の成立過程に関する基礎的研究，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

隅田和輝・落合正行・押田佳子・岡田智秀：都市部における活動場所に着目した住民自治組織とマンション住民の関わり方に関する研究―神奈川県川崎市を対象にして―，第61回理工学部学術講演会，2017.12.1

大山健・岡田智秀・田島洋輔・落合正行・神尾奨太：再生可能エネルギー導入における地域への波及効果に関する研究―北海道地域を対象として―，第61回理工学部学術講演会，2017.12.1

水石知佳・岡田智秀・田島洋輔・落合正行・横内憲久：東京港における水上交通を活用した海上景観の魅力形成に関する研究―（その 3 ）航行速度からみた海上景観の観賞形態について―，第61回理工学部学術講演会，2017.12.1

大石麻由・岡田智秀・田島洋輔・落合正行・横内憲久・水石知佳：東京港における水上交通を活用した海上景観の魅力形成に関する研究―（その 4 ）雨天時における海上景観特性について―，第61回理工学部学術講演会，2017.12.1

小山美和子・岡田智秀・田島洋輔・落合正行・森紗耶 ・成田和樹・山口博：都市空間における街区内細街路の景観特性に関する研究―（その 2 ）奥行プロポーション分析法に基づく街区内細街路の回遊行動促進要因―，第61回理工学部学術講演会，2017.12.1

成田和樹・岡田智秀・田島洋輔・落合正行・森紗耶・小山美和子・山口博：都市空間における街区内細街路の景観特性に関する研究―（その 3 ）街区内細街路の回遊行動に影響を与える定量的要因―，第61回理工学部学術講演会，2017.12.1

鈴木真生・岡田智秀・落合正行・田島洋輔・森田直樹：「倉庫リノベーション」の成立要件に関する研究―東京都墨田区本所地区周辺を対象として―，第61回理工学部学術講演会，2017.12.1

柴崎拓己・岡田智秀・落合正行・田島洋輔・横内憲久：みなとまちづくりにおける「倉庫リノベーション」に関する研究―広島港と尾道糸崎港の防護施設との関係性に着目して―，第61回理工学部学術講演会，2017.12.1

岩瀬谷悠里・岡田智秀・田島洋輔・落合正行・横内憲久・阿部大輝：都内水上交通の発展に資する船着場の魅力形成に関する研究―水都大阪「水の回廊」における船着場を中心とした建築形態の特徴―，第61回理工学部学術講演会，2017.12.1

永井公基・岡田智秀・落合正行・田島洋輔：住民自治組織が自主運営する活動拠点施設の不動産支援に関する研究―（その 1 ）川崎市における市民自治財団と認可地縁団体の不動産支援制度の実態―，第61回理工学部学術講演会，2017.12.1

落合正行・岡田智秀・田島洋輔・永井公基：住民自治組織が自主運営する活動拠点施設の不動産支援に関する研究―（その 2 ）川崎市における市民自治財団と認可地縁団体の施設空間の特性―，第61回理工学部学術講演会，2017.12.1

新橋一士・岡田智秀・田島洋輔・落合正行：寺社に接続する道空間を対象としたまちづくりに関する研究―江戸名所図会から読み取る寺社境内地に接続する道の空間構成について―，第61回理工学部学術講演会，2017.12.1

押田佳子・安齋七風：湘南サナトリウムにおける近代メディカルツーリズムに関する研究一（その 3 ）南湖院門前の療養下宿「魚民館」着目して一，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

安齋七風・押田佳子・倉津耕大：湘南サナトリウムにおける近代メディカルツーリズムに関する研究一（その 4 ）斎藤緑雨を通して見た割烹旅館「東屋」の療養下宿としての姿一，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

安齊航也・押田佳子・久島琴音：日本国内における「観光危機管理」の現状と課題に関する研究―各都道府県の地震・津波避難計画に着目して―，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

入江皓多・押田佳子・奥田和記：植木屋に見るわが国の造園業発展プロセスに関する研究，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

兼井美咲・押田佳子・箱谷柊右也：近代東京における神社境内の信仰的価値に関する研究―近代新設の神社に着目して―，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

屋代明日香・押田佳子・鳥居奨次郎：緑のまちづくりにおける壁面緑化のあり方に関する研究―（その 2 ）緑化賞における壁面緑化の評価視点に着目して―，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

森紗耶・岡田智秀：都市空間における街区内細街路の回遊行動を促す景観特性に関する研究―東京都表参道地区をケーススタディとして，土木学会第13回景観・デザイン研究発表会，2017.12.2-3

渡辺万紀子・天野光一・西山孝樹：街路空間における中間領域の基礎的研究，土木学会第13回景観・デザイン研究発表会，2017.12.2-3

青木和夫：特別講演「人間工学で豊かなまちづくりを」，日本人間工学会関東支部第47回大会，2017.12.16

後藤浩・依田光正・城内博・竹澤三雄：水面からの反射光を考慮した親水空間設計上の留意点（土-1-10），第60回日本大学工学部学術研究報告会，2017.12

大山健・岡田智秀・田島洋輔：雪氷熱エネルギー導入における地域への波及効果に関する研究―岩見沢農業高等学校における雪の環プロジェクトに着目して―，平成29年度第18回自然環境復元学会全国大会，2018.2

神尾奨太・岡田智秀・田島洋輔：畜産系バイオガスプラント導入に伴う地域への波及状況とその効果に関する研究―北海道鹿追町の取り組みに着目して―，平成29年度第18回自然環境復元学会全国大会，2018.2

田島洋輔：河川学習の継続性と地域への波及効果に関する研究―埼玉県羽生市村君小学校における河川学習の取り組みを対象として―，平成29年度第18回自然環境復元学会全国大会，2018.2

小山雄大・坂井航介・仲村成貴：東日本大震災における主体的な避難者の行動特性把握，土木学会関東支部第45回技術研究発表会，2018.3.7-8

白幡隼之介・宮下拓大・仲村成貴：被災地周辺の観光地における宿泊者数の変動，土木学会関東支部第45回技術研究発表会，2018.3.7-8

鈴木和也・仲村成貴：関東地方6県の基礎自治体における災害時応援協定の現状把握，土木学会関東支部第45回技術研究発表会，2018.3.7-8

鈴木一功・仲村成貴・関文夫：実測記録と数値モデルに基づくバランスド扁平アーチ橋の振動特性把握ー埋め戻し地盤の剛性と橋梁の振動特性変化ー，土木学会関東支部第45回技術研究発表会，2018.3.7-8

高橋佑奈・仲村成貴：浸水想定区域と公共建築物の立地状況に基づいたハザードマップ利活用の現状調査，土木学会関東支部第45回技術研究発表会，2018.3.7-8

ポスター発表

Kazuo Aoki, Kunio Horiuchi: Effect of foot bathing in carbonated or warm water on foot grip strength, The 2nd Asian Conference on Ergonomics and Design 2017, 2017.6.3

田島洋輔・岡田智秀：都内水上交通の発展に資する船着場の魅力形成に関する研究，土木学会第55回土木計画学研究発表会・春大会，2017.6.10-11

Jun Tomio, Shin Yamazaki, Hiroko Mizumura, Yoshio Isoda: Public understanding of actions to be taken after disaster warnings: Secondary analysis of a residents' survey in a local city in Japan, SDMPH (Society for Disaster Medicine and Public Health), 3rd Annual Meeting 2017, 2017.9.27

加藤菜々子・小國敬太・草原孝樹・西岡良輔・卞丹青・小木曽裕・山﨑晋：軽井沢本通りと離山通りの街路景観の実態と評価に関する基礎的研究，平成29年度日本造園学会関東支部大会，2017.11.11

阿部龍太郎・青山大輝・笹崎椋平・塩野侑也・藤林寛也・亀田真輝・小木曽裕・山﨑晋：軽井沢観光客のプリンスショッピングプラザに対する訪問目的意識の実態，平成29年度日本造園学会関東支部大会，2017.11.11

林廉太郎・木村柚香・浅原知幸・岩崎真子・徳武知里・小木曽裕・山﨑晋：観光客からみた旧軽井沢銀座通りのまちなみ評価に関する研究，平成29年度日本造園学会関東支部大会，2017.11.11

金濱伊生太・八藤後猛：公共案内・誘導サインによる観光地特有の誘導方法 に関する研究，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

小國敬太・小木曽裕・山﨑晋・加藤菜々子・草原孝樹・西岡良輔・卞丹青：軽井沢本通りと離山通りの街路景観の実態と評価に関する基礎的研究，第61回日本大学理工学術講演会，2017.12.1

加藤有紗・押田佳子・佐藤悠貴・久島琴音：インフラツーリズムを活用した情報共有型観光まちづくりの提案―千葉県市原市月崎隧道群を対象として―，第61回日本大学理工学部学術講演会，2017.12.1

平成29年度後期　“まち”行事・イベントカレンダー

10/7（土）　就活ガイダンス（駿河台キャンパス）

開催日時：10月７日（土）13：20～15：30
場　　所：143教室
出席者数：119名（対象：修士１年＋学部３年、139名）

講演会

対　　象：修士１年、学部２～４年
開催日時：10月20日（金）４・５限
　　10月27日（金）５限
　　11月９日（木）５限
　　11月10日（金）４・５限

11/3（金・祝）　船橋キャンパスウォッチング（船橋キャンパス）

【学科・入試相談会実施結果】

相談組数： ８組（内訳：付属高校１組、その他の高校７組）

相談内容（重複有）

・学科内容について　　：３組
・付属推薦入試について：１組
・指定校入試について　：５組
・一般入試について　　：２組

11/16（木）　理工学部学術賞等表彰式（学会・協会賞等受賞）

午後５時より東京ガーデンパレスにて表彰式が行われ、以下のまちづくり工学科関連の皆さまが理工学部学術賞等を受賞されました。

天野光一（教授）：第12回土木学会景観・デザイン研究発表会「優秀講演賞」
中原真緒（日本土地建物㈱）：2016年度日本建築学会大会学術講演会都市計画部門「若手優秀発表賞」
落合正行（助手）：2017年度日本建築学会作品選集「新人賞」
西山孝樹（助手）：平成28年度土木学会全国大会第71回年次学術講演会「優秀講演者賞」、平成29年度土木学会土木史研究発表会「優秀講演賞」
青木和夫（特任教授）：「平成28年度国際標準化貢献者表彰（産業技術環境局長表彰）」

表彰された青木先生

12/1（月） 平成29年度 第61回理工学部学術講演会

今年も恒例の理工学部学術講演会が開催されました。まちづくり工学科関係の発表は「都市・交通計画部会」で行われ、口頭発表（131、132教室）が32編（全46編）、ポスター発表（CST ホール）が 3 編（全25編）となりました。後日、学科として、以下の学生が優秀発表賞を受賞されました。

優秀発表賞受賞者

[口頭発表]

兼井美咲（４年）：近代東京における神社境内の信仰的価値に関する研究―近代新設の神社に着目して―

水石知佳（M１）：東京港における水上交通を活用した海上景観の魅力形成に関する研究―（その３）航行速度からみた海上景観の観賞形態について―

高松　諒（４年）：住宅団地内に立地する商店街の変遷に関する基礎的研究―千葉市内の集合住宅団地の商店街を事例として―

眞鍋　慧（４年）：街路高質化事業の評価に関する基礎的研究―シンボルロード整備事業実施街路を事例として―

[ポスター発表]

小國敬太（３年）：軽井沢本通りと離山通りの街路景観の実態と評価に関する基礎的研究

口頭発表

ポスター発表

1/19（金） 宅建士・技術士補第一次試験 合格者祝賀会

本年度の宅建士合格者は、２ケタに乗せて11名（累積23名）と大幅に増加しました。技術士補第一次合格者も19名（累積35名）と大きく前進しました。教員７名と、30名の合格者のうち10名が出席して、祝賀会を５号館食堂で行いました。

資格取得者及び教員の集合写真

2/19（月） 卒業研究審査会

発表総学生数：123名

A 班：後藤先生、阿部先生、依田先生

B 班：天野先生、高村先生、田中先生、押田先生、田島先生

C 班：岡田先生、仲村先生、山﨑先生

D 班：八藤後先生、城内先生、西山先生

E 班：小木曽先生、青木先生、落合先生

3/5（月） 卒業者発表

本年度の卒業者数は123名（９月卒業３名を含む）です。

平成29年度　まちづくり工学科各賞受賞者

卒業研究最優秀発表賞

■ **神尾奨太**
畜産系バイオガスプラント導入に伴う地域への波及状況とその効果に関する研究 ―北海道鹿追町の取り組みに着目して―

卒業研究優秀発表賞

■ **鈴木和也**
関東地方６県の基礎自治体における災害時応援協定の現状把握

■ **高橋佑奈**
浸水想定区域と公共建築物の立地状況に基づいたハザードマップ利活用の現状調査

■ **永井公基**
住民自治組織が自主運営する活動拠点施設の不動産支援に関する研究 ―神奈川県川崎市を対象として―

■ **鈴木真生**
「倉庫リノベーション」の成立要件に関する研究 ―東京都台東区蔵前地区周辺を対象として―

■ **鈴木貴之**
NHK 大河ドラマ放送に伴う地域への波及効果についての研究 ―「八重の桜」「真田丸」「おんな城主 直虎」ゆかりの地に着目して―

■ **金丸仁道**
多文化共生施策の変遷に関する基礎的研究 ―ブラジル人集住都市に着目して―

■ **新橋一士**
寺社に接続する道空間を対象としたまちづくりに関する研究 ―朱引内に立地する「横道型」の寺社に見る「寺社情緒」の空間的波及状況―

■ **草野佑介**
洪水常襲地における神社立地に関する研究 ―平成27年９月関東・東北豪雨における茨城県常総市を事例として―

■ **新開　蒼**
東日本大震災による福島第一原子力発電所事故後の周辺市町村住民の帰還に関する研究 ―小中学校の移転が住民人口に与える影響と効果―

オーディエンス賞

■ **柴崎拓己**
みなとまちづくりにおける「倉庫リノベーション」に関する研究 ―広島県内２港の遊休港湾の機能転換プロセス―

■ **安齋七風**
湘南海岸サナトリウム群における近代メディカルツーリズムに関する研究

教職員・学生の活躍　平成29年10月１日～平成30年２月28日

学会・協会等の受賞、テレビ放映や全国紙・雑誌等に掲載された記事、書籍の出版など、本学科の教職員・学生の活躍を紹介します。

［受賞］

■ 准教授 阿部貴弘

公益財団法人日本デザイン振興会「グッドデザイン賞」
対　　象：「世界遺産区域内における広場整備［富士山本宮浅間大社・神田川ふれあい広場］」
http://www.g-mark.org/award/describe/45755
受賞年月日：2017年10月４日

公益社団法人土木学会「土木学会デザイン賞　奨励賞」
対　　象：「富士山本宮浅間大社　神田川ふれあい広場」
http://design-prize.sakura.ne.jp/archives/result/873
受賞年月日：2018年１月21日

■ 助手 落合正行

アイカ工業株式会社「アイカ施工例コンテスト2017」優秀賞
対　　象：「上池台の住宅 いけのうえのスタンド」（設計担当）
http://www.aica.co.jp/news/corporate/2018/01/-no118a462018124-aica2017409-11-jp26-989170aica20172017811130409156112312-62012.php
受賞年月日：2018年１月24日

■ 特任教授 青木和夫

経済産業省「平成28年度国際標準化貢献者表彰（産業技術環境局長表彰）」
対　　象：「ISO/TC159（人間工学）規格制定活動による国際標準化活動への貢献」
受賞年月日：2016年10月６日

■ 日本大学名誉教授 横内憲久

船橋市「市制施行80周年特別功労表彰」
受賞年月日：2017年11月３日

■ 大学院 渡辺万紀子

公益社団法人土木学会「平成29年度全国大会第72回年次学術講演会優秀講演者」
対　　象：街路の中間領域に関する研究
受賞年月日：2017年11月10日

「教職員・学生の活躍」の情報は、随時編集までお寄せください。なお、本年度の学会等での発表は、次号（10月発行予定）にまとめて掲載します。

［書籍に掲載］

■ 准教授 阿部貴弘

記事「湊と河岸」
掲　載　書：『みる　よむ　あるく　東京の歴史　２』（吉川弘文館）
発行年月日：2017年11月10日

［雑誌に掲載］

■ 教授 天野光一

記事「美しい国土、地域、まちを創出する道路デザイン」
掲　載　誌：『道路』（日本道路協会）
発行年月日：2017年11月１日

■ 准教授 阿部貴弘

記事「見て歩き土木遺産　芝公園周辺を歩く」
著　　者：阿部貴弘、石黒未夏、斉藤萌、松下直道、金子竜太郎
掲　載　誌：『月刊　土木技術』（理工図書）
発行年月日：2017年10月１日

記事「見て歩き土木遺産　四谷見附から赤坂見附へ―江戸城外濠周辺を歩く―」
著　　者：阿部貴弘、金子竜太郎、工藤隼人、久保大樹、小池礼鴻、篠原涼
掲　載　誌：『月刊　土木技術』（理工図書）
発行年月日：2018年１月１日

■ 准教授 押田佳子

記事「未就学児を対象とした子育てしやすい公園選び―母親目線で捉えた公園雑感」
掲　載　誌：『都市公園』217号（緑と水の市民カレッジ）
発行年月日：2017年７月１日

■ 助手 落合正行

記事「上池台の住宅 いけのうえのスタンド」（設計担当）
掲　載　誌：『日経アーキテクチュア』2017年12月28日号
発行年月日：2017年12月28日

［WEB サイトに掲載］

■ 助手 落合正行

記事「上池台の住宅 いけのうえのスタンド」（設計担当）
掲載サイト：「一般財団法人住まいの学校」http://www.housliv.org/columns/?type=HOUSE&columns_id=213
掲　載　日：2017年10月30日

理工学部南棟建設の進捗　2018.2.7

南棟19階建ての躯体工事はすべて終わりました。現在は、内装工事の最終段階にかかりました。ソラシティからニコライ堂越しに見える南棟は、後ろの三井住友ビルを隠してしまいますので、御茶ノ水の新たな景観といえるでしょう。６月に竣工予定だそうですが、その後に５号館が解体され、庭園のようになるそうです。学生諸君も少しは広いオープンスペースを楽しむことができそうです。ということで、次号の『まち』（11号・秋号）には南棟が完成するので、「進捗」欄は今号で終了です。２年間ありがとうございました。

ニコライ堂越しの南棟の雄姿▶

編集後記

今回の特集はかなり硬派でまとめました。決して新聞業界の肩を持つわけではありませんが、いまのところ日本で社会状況を的確にとらえる手段として、新聞はまだまだ上位にあるといっても過言ではないでしょう。先生方からのアンケート結果からも、学生に新聞を読むことを推奨しています。しかしながら、３、４年すると状況が変わっているかもしれません。話は変わりますが、ある雑誌に、この冬中国で買い物をしたときに人民元を出したところ、店の人に「今日初めて現金を見た」と言われたとありました。大都市では、ほとんどスマホ決済だそうです。小生も昨年11月にニューヨークに数日行きましたが、昔の記憶のままに、数万円分をドル紙幣に替えて街中に立ちましたが、大量にドル紙幣が残ってしまうという経験をしました。今後、新聞というツールも思いもよらないシステムに変わるかもしれませんが、それが出現するまでは、知識を増やすためにも、新聞をしっかり読んでおきましょう。

さて、今号で横内（編集長）は終了です。第７号（2016年秋号）から第10号までの約２年間、まち科の先生方の寛大なお心、ご協力により、楽しく自由にやらせていただきました。まちづくり工学科の今後の発展を支える一助となる、「まち」へのご支援をこれまで通りお願いいたします。なお、次号からは、小木曽先生、西山先生の編集で取り組みます。ご期待ください。長い間ありがとうございました。　（横内憲久）